

令和4年度「競技成績報告会」



選手代表挨拶を務めた妹尾さん



課外活動団体を代表して試合解説をする体操競技部の金田希一さん（スポーツ総合課程3年、船橋市立船橋高等学校・千葉）

また、スポーツ分野の成績が特に顕著であり、鹿屋市の名声を高めた者に贈られる鹿屋市スポーツ奨励金の贈呈式も執り行われ、受賞者を代表して剣道部の妹尾舞香さん（武道課程4年、中村学園女子高等学校・福岡）に鹿屋市長から奨励金の目録が手渡されました。引き続き、一般社団法人 テンオーバーナ

はじめに、金久博昭学長から挨拶があり、中西茂鹿屋市長、尾脇雅弥垂水市長はじめ来賓の皆様を紹介し、来賓を代表して中西鹿屋市長の挨拶、主催者を代表して風呂井敬財団理事長の挨拶と、厳粛な雰囲気の中は進行しました。その後、今回競技成績報告対象となった競技成績優秀な学生の紹介があり、出席者から盛大な拍手が送られました。



令和4年度 鹿屋体育大学競技成績報告会

最後に来賓の方々も一緒に記念撮影

この会は、令和4年度中に競技大会で特に優秀な成績を収めた学生を一堂に集め、日頃より応援ならびに支援をいただいている学内外の方々に競技成績を報告するとともに、今後ますますの競技力向上を期待し各選手を激励するために開催したものです。令和元年度までは、学生食堂にて飲食・歓談を交えながら開催していましたが、今回新型コロナウイルス感染症の感染対策を図り、水野講堂での開催となりました。

令和4年11月13日に愛知県春日井市総合体育館で「第41回全日本女子学生剣道優勝大会」が開催され、本学剣道部の女子チームが4年ぶりに優勝し、最多優勝記録を11回に更新しました。鹿屋体育大学は1回戦を勝ち抜いてきた東海大との緒戦を2-0で3回戦に進み、中央大3-1、準々決勝勝波大2-0と関東の強豪校を次々に倒し続け、5年ぶりの頂点を目指していた日本体育大学を4-0で破り、学生日本一に輝きました。



写真前列左から、太田ひかるさん（武道課程4年）、渡辺千晴さん（同4年）、妹尾舞香さん（同4年）、庄島亜美さん（同4年）、後列左から、竹中健太郎先生、峯松加奈さん（同2年）、東堅嘉裕さん（同3年）、大嶋友莉亜さん（同3年）、下川美佳先生

大学3年生の時に第60回全日本女子剣道選手権大会で優勝し、9月の4年生時の大会でも準優勝だった妹尾舞香さん（武道課程4年、中村学園女子高等学校・福岡）は、学生の大会での日本一は経験できずにいましたが、学生生活最後の大会で念願の優勝を果たしました。【下川美佳女子剣道部監督の話】トーナメント表を見たとき、厳しいヤマに入っているというのが第一印象でした。まずは1回戦1回戦を大事に、きつ

ちり戦っていかうという気持ちで会場入りし、選手には「目の前の4分間、集中してこい」と声をかけ続けました。3回戦の中央大学との試合で先鋒戦を落とし、次鋒戦でもリードを奪われたときは正直ちょっと厳しいかなと思いましたが、終了間際に取り返して引き分けになり、後半息を吹き返すことができました。

妹尾は入学してきたときから「先生を日本一の監督にしますから」と言い続けてくれましたが、コロナの影響を受けた学年で2020年は大会自体が中止になり、前回の40回大会は緒戦敗退でした。彼女は入学してくる前から有名選手でしたので、妹尾率いる剣道部の女子チームが日本一になれなかったら私の指導力の問題だなと思っていました。今回は私以上に彼女の想いが強かったと思います。

学生が頑張ったのはもちろんですが、剣道部部長の前阪先生、さまざまな角度から助言、指導をいただいた竹中先生、剣道部のメンバー全員で手に入れた優勝だと思っています。

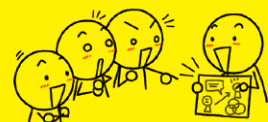
「わかくさ」 本学の多くの学生は、大学近くに居を構える。すぐ近くに友達がいる。終電や門限を気にせず、日が暮れてもいつでも集まれる仲間がいる。みんなが「ご近所さん」である。▼学生たちが集う、何とも言えない淀みのある街、鹿屋。今の言葉で表現すると、これぞまさに「エモい」空間なのである。

学生時代には気付かないかもしれないけれど、実はこの環境は特別で、今、学生たちは実はとても幸せな時間の真っただ中にいる。▼深夜に大した用事はなくても、「起きてる？今から行っていく？」と会いに行ける友達がいる。コンビニでジュースとお菓子を買って、友達の前で集まって、たわいもない会話を朝まで笑い合える。夜中に小腹がすいたとみんなでラーメンを食べに行き。今は当たり前に行き続けているかもしれないが、これは学生の今だからこそできる特別なこと。近くに心許せる仲間がいて、時間があっても、徹夜なんてへっちゃらの体力がある。今の年齢だからこそ、学生時代の特権なのだ。▼そして、何より、スポーツや武道を愛する共通の意識が、絆をより深くする。もちろん愛する人と共に生活すること、家族と共に囲む食卓も幸せだ。でも、今、この学生時代にしか味わえないこの幸せ、素敵な時間、青春を思う存分謳歌して欲しいと願う。特に今春、鹿屋を巣立つ卒業・修学生には、残り少ない学生生活を存分に楽しんでほしい。（K・C）

スポーツを愛する
すべての人とともに

ミズノスポーツ振興財団は、
スポーツの振興・普及を目指し、
スポーツを愛する人たちを応援しています。

卒業生 Interview



「好きなこと」を
自分の強みに!

イラストプレゼン講師

10期生
河尻 光晴 さん



【Profile】

かわしり・みつはる。1974年4月30日、岐阜県生まれ。岐阜県立加茂高等学校から鹿屋体育大学へ進学、1997年卒業。兵庫教育大学大学院修了（教育学修士）。教育出版社の商品開発を経て、中小企業のマーケティングやブランディングのツール企画制作に携わる。担当したクライアントは延べ600社以上。ライフワークとして似顔絵師としても活動しており、2015年からイラストの技法を使った研修やセミナーを開始。講師活動と共に、教材開発・コンテンツ開発も行っている。

えっ？鹿屋体育大学の卒業生でイラストを教えている方がいる？このミスマッチにもうびっくり。在学時代は陸上競技部で中距離の800mを専門としていて、金高宏文教授から「イラストが上手いぞうだな。陸上競技部のTシャツ作って」と頼まれたこともあるそう。まだまだゆるキャラなどが流行する前だったのだが、桜島を模したキャラがゴールテープを切る奇抜なデザインで、鹿屋体育大学陸上競技部のオリジナルTシャツを作成。先輩たちの活躍と共に、そのTシャツはインカレの会場でもかなりの話題になったとか。

岐阜県、下呂温泉のある山の中で育った河尻光晴さんは子どもの頃から走ることを絵を描くことが大好きで、高校時代には陸上競技の中距離800mで県のトップに

なり、鹿屋体育大学へ進学した。あと一息というところでインカレの全国大会に出場することになったが、陸上競技で最も過酷と言われる800mで身につけたノウハウは生きる技術として役立ってきたようだ。800mはただ速いだけではなく、相手との駆け引きや転倒の危険回避等、多くを求められる種目だ。客観的に自分が走るポジションを確認しながらゴールを目指す、まさに河尻さんが歩んできた半生そのものだ。

子どもの頃からなりたい教員を目指して、就職試験を受けるも、就職水戸期で県内の枠は一つだけで、挑戦はあえなく失敗。しかし、それにめげることなく、何となく教育関係の仕事に就きたい一心で、兵庫教育大学大学院で教育学の修士を取得した。民間の教育関係

出版社で営業や、企画開発、教材開発などに携わる。そこでデザインに興味を抱き、35歳で転職。印刷会社に勤務する傍ら、副業で似顔絵師の仕事始める。さらには、教員や名刺の作り方セミナーをビジネスマンや教師を対象に開催。コロナ流行と共に「絵を描いてオンラインで説明するとプレゼンテーションが上手いよ」をキーワードに授業を展開。するとこれが爆発的な人気を博し、多くのビジネスパーソンがオンラインで参加するようになった。

そこで、2021年6月に絵を描くことを仕事にしようとして独立を決意。47歳の時だ。イラストレーターや漫画家としてはあまりにも後発だ。そこで、誰もがイラストを描けるようになり、それをコミュニケーション



ツールとして使ってもらえるようにしたいと「描くこと十教えること」を自分の仕事と位置づける。これまでの一般的に行われてきた「書く十話す」に、棒人間と命名した絵が加わることで、思考が整理され、コミュニケーションスキルがアップしていくことを目標としている。立ち上げた看板は「イラストプレゼン研究所」だ。

「棒人間」は丸い顔に棒で手足を描いただけのものだが、人間の動作の基本がわかっていないと描けない。そこには河尻さんが体育大学で学んだ強みが生きている。バイオメカニクスのモーションビッチャーを扱った経験、さらには解剖生理学に基づいた基本的な人間の動き方を習得していることが役立っているのだ。

今では一般のビジネスパーソンだけではなく、理学療法士やスポーツ指導者など、人間の身体にかかわる仕事に従事する人たちもセミナーを受講するようになっている。こうしたイラストとともに説明をしてもらえる患者や子どもたちは、説明されていることへの理解が進むこと間違いなしだろう。

日本国内の需要だけではなく、一昨年からフランスの日本語学科の高校生や、イタリアのベネ



『どんどん仕事がかどる「棒人間」活用法』
(青春出版社・1650円)

ツィアの大学の学生を対象として、日本の文化紹介の一環としてリモートで授業を行っている。日本のアニメ文化が浸透している欧州だけに、若者たちは河尻さんの授業に食いいついてくるという。

2023年2月には初めての著書が出版される。タイトルは『「棒人間」活用法』で、イラストが仕事の現場でどう使われるとよいかというビジネス書のジャンルに入るものだ。世の中、パソコンのパワーポイントなどを使っているプレゼンテーションが全盛だが、こうしたイラストを自分で描けるとずいぶんと訴求力も変わってくると思う。好きなことを仕事にできる喜びと、後悔しない生き方をしたいという想いを抱きながら、河尻さんは、時代のニーズに合わせて自分の生きる位置をしっかりと見つけている。(スポーツ文化ジャーナリスト 宮嶋泰子)

歴代最高 第76回全日本体操選手権 3位



受賞メンバーが学長報告

写真前列左から、平川康弘理事・副学長・事務局長、中谷太希監督、金久学長、山下龍一郎部長、安田健人コーチ。
2列目左から、津村涼太さん（スポーツ総合課程2年）、田邊友唯さん（同2年）、金田希一さん（同3年）、上山康太郎さん（同4年）、手島克さん（同4年）、長谷川毅さん（同4年）

るのは鹿屋ならはだと、思うので、自然の力も自分の力に変えて、1つでも上のレベルを目指してこれからの頑張ってください」と激励しました。

報告を終えて中谷太希監督は「学長から力強い言葉をいただきました。全日本団体で3位になったですごく喜んでいました。全日本団体で3位になったですごく喜んでいました。全日本団体で3位になったですごく喜んでいました。」

のようですが、ここはまた通過点です。この先を見据えて世界選手権、オリンピックの日本代表になれるようにこれからまた取り組んでいきたいと思っています」とコメントしました。この試合までキャプテンを務めていた上山康太郎さん（スポーツ総合課程4年）は「初めて

昨年12月に福井県で「第76回全日本体操選手権」が開催され、本学体操競技部が歴代最高の3位に入賞しました。1位は徳洲会体操クラブ、2位はセントラルスポーツに次ぐ3位で、学生の団体としては1位の好結果となりました。部長、監督、コーチ、出場した選手6人全員で

学長報告を行いました。金久博昭学長は「まず大学日本一というやうな力、チームとしての力をより強化して欲しいと思います。そういったことの積み重ねの先に、世界選手権大会やオリンピックがあります。私が君たちに期待するのは、どんなに小さな試合でも取りこぼすことのないよう一人ひとりが健康管理をしっかりとやって自分の力、チームとしての力をより強化して欲しいと思います。そういったことの積み重ねの先に、世界選手権大会やオリンピックがあります。」

まっすぐに。正直に。

たいかい
大波酒造株式会社
〒893-0016
鹿児島県鹿屋市白崎町21番1号
電話(0994)44-2190 FAX(0994)40-0950

〇飲酒は20歳になってから。
〇飲酒は楽しく、適量を。
〇妊娠中、授乳期の飲酒はお控え下さい。
〇飲酒運転は法律で禁止されています。

Kubota 農業機械
株式会社
三木商会
http://www.mizuho.kubota.ne.jp
〒893-0009
鹿児島県鹿屋市大手町12番1号
TEL (0994) 43-4178
FAX (0994) 44-9371

【営業所】
鹿屋・高山・志布志・岩川・
牧之原・野方・垂水・大根占

汲取の御注文
浄化槽の管理

水質保全に
全力投球

鹿屋市許可 株式会社 西日本浄化サービス
代表取締役 田中ふみ子
鹿屋市王子町4531-2
TEL (0994) 43-3425

あなたの町に、レモンガス

株式会社レモンガスがこしま
鹿屋支店

鹿屋市大浦町11423番地1
0994-42-2181

令和4年度 永年勤続者表彰式を 開催しました



隅野先生

田巻先生

12月13日と12月15日の2日間に分けて、令和4年度永年勤続者表彰式を開催しました。この賞は官公庁等で20年以上勤務し、このうち本学の職員として10年以上職務に精励した方を称えるものです。今年度はスポーツ生命科学系田巻弘之教授（スポーツ生命科学系）、隅野美砂輝准教授（スポーツ人文・応用社会科学系）の2名が受賞しました。表彰式では、金久博昭学長より受賞者へ表彰状が手渡され、これまでの功績への感謝の意と、引き続き本学で力を発揮して欲しい旨が伝えられると、受賞者からは「今後も鹿屋体育大学の教育研究活動に尽力します」と挨拶がありました。



令和4年度

教員表彰式を実施

令和4年度教員表彰式を11月29日（土）に実施しました。この表彰式は、前年度の授業振り返りアンケートを参考に、本学の授業において特に優れた教育能力を発揮した教員を表彰する「特別優秀授業賞」と、全日本選手権大会等において3位以上の成績の学生を輩出するなど、本学学生の競技力向上に貢献した教員を表彰する「ブロンズコーチ表彰」の2つの部門の表彰が構成されています。今年度は特別優秀授業賞に3名、ブロンズコーチ表彰に7名が選定され、1名がダブル受賞のため9名が表彰されました。

表彰式では役員出席の下、金久博昭学長から一人ひとりに表彰状が手渡され、来年度も表彰されるように引き続き、き励んでほしいとの挨拶がありました。この表彰式は教員のモチベーションを高め、本学の教育活動及び競技力向上の進展につながることを期待し、毎年行われています。受賞者は写真前列左から、格下か子准教授（特別優秀授業賞）、竹中健太郎教授（特別優秀授業賞）、ブロンズコーチ表彰、金久学長、前阪茂樹教授（ブロンズコーチ表彰）、浜田幸史准教授（特別優秀授業賞）、後列左から平川康弘理事・副学長・事務局長、中谷太希助教（ブロンズコーチ表彰）、山口大貴講師（同）、中村勇講師（同）、下川美佳講師（同）、小崎亮輔助教（同）、前田明理事・副学長。

3月で定年退職される先生方



前田 博子 教授
（在籍年数30年）



山本 正嘉 教授
（在籍年数25年）

1981年3月神戸大学理学部地球科学科卒業。神戸大学大学院教育学研究科修士課程、同大学院人間発達環境学研究科博士課程修了。学術博士。1993年4月、本学講師として着任。1999年11月、助教。2016年、教授。キャリア形成支援センター初代センター長。専門はスポーツ社会学。スポーツにおけるジェンダー課題の検討についても研究。全日本女子サッカー選手権大会出場（5度）、大学女子サッカー選手権大会4位（監督）、日本サッカー協会女子1級審判員。日本体育学会、日本スポーツ社会学会、日本スポーツとジェンダー学会、日本生涯スポーツ学会、日本フットボール学会等各学会での理事・学芸編集長などを歴任。

1982年3月東京大学教育学部体育学健康教育学科卒業。東京大学大学院教育学研究科体育学専門課程修士課程修了。教育学博士（東京大学）。1998年4月、本学助教として着任。2005年4月、教授。2006年8月、2022年3月、鹿屋体育大学スポーツトレーニング教育センター長兼務。専門は運動生理学、トレーニング科学。秩父宮記念山岳賞、日本山岳クラブなど受賞歴多数。登山家の三浦雄一郎氏が70、75、80歳の3回エベレストに登頂した際は、事前トレーニング指導を担当した。日本体力医学会評議員、日本運動生理学会評議員、日本スポーツパフォーマンス学会理事などを歴任。



スポーツインベシジョン 推進機構の看板を設置

1月1日付で、本学に「スポーツインベシジョン推進機構」が設置され、機構長に前田明理事・副学長が就任しました。設置目的は「研究・プロジェクトで得られた知見に基づいて、体育・スポーツ分野における運動実践の指導モデルを構築し、その成果を広く社会に還元すること」に、高度で良質な実践的指導者を育成するために本学の研究資源を統合し、先端的な研究の推進を図ることです。3つの部門と2つの室で構成されています。仕組開始の1月4日、金久博昭学長、前田明機構長、各部門長・室長が実験研究棟2階に集い、看板掛けを行いました。

課外活動 団体紹介

女子バスケットボール部



女子バスケットボール部は、前村かおり先生のご指導のもと、3年生7名、2年生9名、1年生6名の計22名で活動しています。

私たちは「百華繚乱 ～ Infinity Goddess ～」をチームの理念として掲げ、選手一人ひとりの個性が合わさり、無限大の可能性を持つチームになれるように、日々の練習に励んでいます。

昨シーズンのリーグ戦の一巡目では思うような結果が残せず、二巡目で全員が気持ちを切り替え、チーム一丸となって戦いました。その結果、九州で3位となりインカレに出場することができました。インカレではベスト8を目標にしていたが、ベスト32という結果でした。しかし、そこで私たちは多くの方々に応援していただいているのだと、改めて感じる事ができ、さらに努力し続けなければいけないという思いになりました。

1月29日には本学で日本経済大学とのFutures Matchに、鹿屋市の方々を招待するというイベントを行いました。これからは、鹿屋市の子供たちのバスケットボールスキルの向上及び地域コミュニティの醸成にも貢献できるように頑張っていきます。

Instagram等のSNSの活動もしているので、こちらもチェックしてください！これからも女子バスケットボール部の応援をよろしくお願いします！！

何か物足りない、何か決め手に欠く、そんな“あと一步”をお手伝いします。

ヒューマン印刷に変わる
株式会社 新生社印刷
〒893-0013 鹿児島県鹿屋市礼元1-22-34
TEL 0994-43-2238/FAX 0994-43-7541
URL <http://www.shinsei-p.co.jp>
E-mail kan@shinsei-p.co.jp

心にしみる...



小鹿酒造株式会社

鹿児島県鹿屋市吾平町上名7312番地
TEL 0994-58-7171 FAX 0994-58-8363
<http://www.shochu-kojika.jp>
お酒は20歳を過ぎてから。

自宅・アルバイト先 ← DIRECT! → 自動車学校 ← DIRECT! → 学校・寮

★その日のスケジュールに合わせて1時間おきにダイレクト送迎
忙しい学校生活の強い味方です!!
★提携会社による分割払いも月々5000円からご利用になれます

心豊かな車社会を願う
寿自動車学校

ご予約・お問い合わせ TEL 0994-43-2627 E-mail: info@kotobuki-ds.jp
〒893-0013 鹿児島県鹿屋市礼元1-13-30
ホームページURL <http://kotobuki-ds.jp>
県公安委員会指定教習所[技能試験免除]

すべての消費者のために!!

MOVE
It's your future
寿スポーツ
BE FIRST
鹿児島県鹿屋市新川町603-2
TEL 0994-44-2123

闘いの記録 (令和4年12月～令和5年2月)

【体操競技部】

■第76回全日本団体選手権

(12/10～11 福井/サンドーム福井)

▽男子 団体総合 3位 鹿屋体育大学

【水泳部】

■第43回九州カップ水泳競技大会

(2/4～5 福岡/福岡市立総合西市民プール)

▽男子	100m平泳ぎ	1位	櫻田 大己
	200m平泳ぎ	1位	櫻田 大己
▽女子	50m自由形	1位	久保田 梨琉
	100m自由形	1位	久保田 梨琉
	200m自由形	1位	津隈 由子
	400m自由形	1位	津隈 由子
	50mバタフライ	1位	仲田 葵
	100mバタフライ	1位	後野 真衣
	200m個人メドレー	1位	後野 真衣

【剣道部】

■第16回全日本学生剣道オープン大会

(12/10～11 北海道/北ガスアリーナ札幌46)

▽女子 参段以上の部 2位 谷口 妃奈里

昨年末に鹿屋体育大学体育会総会が開催され、第40代体育会会長に今井公暉さん(スポーツ総合課程2年、目黒高等学校 東京)が就任し、秋葉笑里さん(武道課程3年、川辺高等学校・鹿児島)からバトン



第40代体育会会長に 2年生の今井公暉さん

が渡されました。今井さんに話を伺いました。

— 鹿屋体育大学に進学したのは？

今井 中学・高校とバスケットをしていたので、国立の体育系の大学に行きたいと思っていました。2年、目黒高等学校 東京が就任し、秋葉笑里さん(武道課程3年、川辺高等学校・鹿児島)からバトン

が渡されました。今井さんに話を伺いました。

— 鹿屋体育大学に進学したのは？

今井 6年間やってもうやり切った感じがあったので、兄がここの大学でとても楽しそうにウインドサーフィンをやっていたので、せっかく鹿屋に来たのだから自分もやってみようと思いました。もともと大学生になったらいろんなことに挑戦したいと思っていました。

— 体育会会長には自ら手を挙げて立候補したそうですね。

今井 上に立つ者の責任を、社会に出る前に経験しておきたいと思いました。実は周りの友人たちから「オレ、体育会会長になるわ」と、総会の前から公言していました。

— 有言実行だったわけですね！ 最後に会長に就任しての今後の抱負をお願いします。

今井 コロナの影響で入学時の宿泊研修がなかったこともあり、うちの大学は授業の時など行動する傾向にあると感じています。まずは運動会のようなスタイルでもいいので何か1つイベントをやって、「他部活」の人たちと一緒にやる競技種目を考えて学内の交流を図りたいと考えています。蒼天祭もコロナ以前の状態に戻し、学外の方にも呼べるような形で開催できるように頑張ります。

第35回九州レジャー・レクリエーション学会 鹿屋大会が本学で開催されました



実行委員会委員長を務めた前田教授



基調講演するやねだんの豊重氏

2月11日、12日の2日間、本学において「第35回九州レジャー・レクリエーション学会鹿屋大会」が「人口減少地域におけるレジャー・レクリエーションの可能性」をテーマに久しぶりに対面で開催されました。

11日は理事会の後に基調講演が行われ、鹿屋市串良町における地域再生と創成で有名な「やねだん」の自治会館館長豊重哲郎氏が登壇しました。演題は「住民による、住民のための地域再生—鹿屋市『やねだん』の取り組みから—」。豊重氏は平成8年から26年間かけ、行政に頼らない地域再生・創成のためのさまざまな仕掛け、取り組みを創りつづけた自らの体験から「人口減少の時代に若い人たちがふるさとを愛し、地元に戻ってきて子育てをしたいと思えるような地域にするための人づくりのヒントや課題」について話しました。サステイナブルな地域を育てるのは、一人ひとりへの目配り・気配り・心配り、そして「言葉配り」が大切であり、それをリー



2日目午後のシンポジウム

ダークが黒子で実行すること、また「地域再生に補欠はいない」など、実績と経験から紡ぎだされた講演内容には、地域活性化に限らず、組織や団体等を再生・創成させるためのヒントが盛りだくさんでした。

12日の午前中は研究発表と実践発表が行われ、午後は「地域資源の廃校を生かすレジャー・レクリエーション」をテーマにシンポジウムが開催されました。総合司会を本学の前田博子教授(スポーツ人文・応用社会科学系)・コーディネーターを坂口俊哉講師(同)が務め、パネリストとして登壇した3人、大久保憲治氏(鹿屋市役所)は「廃校利用の現状と課題 鹿屋市の取り組み」、繁昌孝亮氏(ユクサおおすみ海の学校)は「菅原小学校の活用事例 宿泊施設として」、洲鎌宏章氏(パーク高須中)は「高須中学校の活用事例 スケートボードパークとして」の演題で発表しました。

デイスカッションの後、坂口講師がレジャレクは直接的に少子化を食い止めることはできないが、間接的には社会問題の解決につながる可能性があること、働き方改革の1つとして地方への移住があるが、たとえばサーフィンをしたいから宮崎に移住したいなど、人生の目的としての中心的な価値の中にレジャレクが入ってきていることについて触れました。また「学校は廃校になっても地域の人々をつなぐ『ポンド』の役割や多世代交流の場としての役割、防災拠点としての役割を果たせること、ただしそこには財政の問題があり、行政の協力が必要で

ある」とまとめました。最後に今大会実行委員長を務めた前田教授から「今回の学会ではみなさんにとっても丁寧に説明して

1月22日に「同窓生と鹿屋体育大学の情報交換会」が開催されました。当日は、本学会議室をウェブ会議会場として約20名の同窓生がオンラインにより参加し、本学からは金久博昭学長、前田明

ていただき、議論を深めることができました。レジャー・レクリエーションにおける自分たちの課題として、今後我々として

最初、金久学長から、新執行部、スポーツインベーション推進機構及びNIFS NEXT30の紹介と同窓生に向けて「NIFS NEXT30のアクションプランを注視し、オール鹿屋体育大学の一員として、本学の未来を切り開く力となっていく」とお願いがありました。次に、前田理事・副学長から本学の教育・研究、社会連携、組織運営等の取

り組みの状況、前阪学長補佐から学生の活動や支援等の説明がありました。最後に意見交換会が行われ、同窓生から本学への支援が期待されています。

同窓生と鹿屋体育大学 との情報交換会を開催



情報発信中！



公式 HP



Twitter



Facebook

鹿屋体育大学ではこの「蒼天」や公式ウェブサイト、その他SNS等を通して広く皆様へ本学の活動情報をお知らせしております。ご覧になってのご意見、その他鹿屋体育大学の教育研究活動等のご意見がございましたら、今後の運営・活動の参考にさせていただきますのでぜひお寄せください。ご意見・アンケートは以下二次元コードからweb入力できます。



鹿屋体育大学へのご意見をお寄せください。

